



学校だより

令和 7 年 6 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

本当の自由のために

5年生が2日間の妙高自然体験学習に行ってきました。高橋希先生（2年生時担任、現在「国立妙高青少年自然の家」職員）が、立派に子どもたちが活躍する姿を見て、感激の涙で挨拶されたそうです。初めての宿泊体験。自分の身の周りのことは自分でできること。時間や行動など集団のルールを守ること。仲のよい友達だけでなく誰とでも協力すること。疲れていても自分の役割を果たすこと。いつもの生活とは異なり「不自由」なことは多いのですが、その中で思う存分2日間を楽しむことができました。みんな本当によく成長しました。

「自由にさせてほしい」と、子どもたちが言うことがあります。例えば、授業で課題が早く終わったとき、「自由時間にしてほしい」と言う子がいます。また、教室の座席を決める時、「自由に決めさせてほしい」と言うこともあります。時と場合によっては、子どもたちが望む「自由」にできるときもあります。しかしながら、ほとんどの場合、子どもたちが「自由」を望んでいるからといって、簡単に「自由」にすることはできません。様々な問題が起こる可能性があるからです。

例えば、授業中なのに教室の中を走り回ったり大声を出したり。「自由なのだから何をしてもよいのだ」と、行動してしまう子もいるのです。また、子どもたちによる「自由な席替え」も同じです。身体的な理由等で前の席や後ろの席にしなければならない子もいます。いろいろな理由で同じ班にならないと困る人や違う班にした方がよい人もいます。こういうことを考慮して席替えをしないと、学習がよくできなかつたりトラブルが起こったりします。

さらに言えば、子どもたちが求めている「自由」とは、「自分勝手に好きなことをさせてほしい」という意味が強いのです。学校は勉強するところです。「勉強したくないから自由にさせてほしい」と言われても無理です。また、学校は、みんなと仲良く公平に集団生活を学んでいくところです。「自分のやりたいようにやらせてほしい」と言われても、その子だけが得をしたり、みんなの迷惑になったり、友達の誰かが辛い思いをするようなことが起こらないようにしなければなりません。弱肉強食では、安心して学校生活を過ごすことができません。また、楽しいだけで「学び」がなければ、学校の価値はありませんから。

「本当の自由」とは、今いる場所（学校、職場等）のルールを守り、意見が違う他者と進んで関わり、認め合い協力し合いながら、自信をもって自分の資質や能力を発揮することができることです。5年生の宿泊体験学習も多くのルールがありました。自然の中で安全に活動し、集団生活の中で楽しく過ごすためです。ルールを守れたからこそ、楽しいのです。

ルールを逸脱することは「本当の自由」ではありません。意見が違う人を拒絶したり、協力し合うことができなかつたりするのも「本当の自由」ではありません。「自分勝手にやる」と命にかかわりますし、「人とかかわることが嫌だ」となれば、そもそも社会生活ができません。当たり前のようにルールを受け入れ、他者と仲良くできる力が「本当の自由」に繋がります。社会の中で、自由自在に生きてくことができる力を育てていきたいものです。